

<霊的備え>

シオンを巡り その周りを歩け。その塔を数えよ。その城壁に心を留めよ。  
その宮殿を巡り歩け。後の時代に語り伝えるために。この方こそまさしく神。  
世々限りなく われらの神。神は 死を越えて私たちを導かれる。 (詩篇 48:12-14)

<理解の手引き>

主は今まで、アブラハムを取り扱い、様々な点において彼を砕かれました。それは、彼が約束の子を受けるのにふさわしく、整えられるためです。

しかし、今度はサラを、ここで取り扱われます。主はサラに、子どもを与える約束をされました。しかし、サラはそれが信じられず、心の中で笑ったのでした。それは、こんな年寄り夫婦に子どもが与えられるなど、不可能だと考えたからです。これは、不信仰からくる自嘲的な笑いでした。

主は、これに対して、「主に不可能なことがあろうか」と答えました。主はこのように語ることによって、サラが現実の状況にではなく、主ご自身に目を留めるようにされたのです。

サラは恐ろしくなり、「私は笑いませんでした」と言って、自分の不信仰を隠そうとしました。しかし、私たちが信仰に堅く立つためには、まず、自分の不信仰を率直に認めることが大切です。

<考えてみよう>

(観察) 主の約束に対して、サラはどのような態度を示しましたか？

.....  
.....  
.....

(解釈) 主は何故、彼らがもっと若い時にではなくて、年を取ってからこのような約束を与えられたのでしょうか。

.....  
.....  
.....

(適用) ここから、信仰について、あるいは神についてどんなことを学ぶことができますか？

.....  
.....  
.....

<心に残ったみことばや気づき>

.....  
.....  
.....

<今日の祈り> (教えられたことを短い祈りで表す)

.....  
.....